

OBUSE

栗もいいけど、ほかにもある小布施の魅力

小布施町と言ったら、有名なのはやっぱり「栗菓子」。
だけど、それ以外にも今、おもしろい取り組みが行われています。
それは小布施という町を愛する人たち、そして、若い人が中心となった活動。
今回は、栗だけじゃない、さまざまな小布施カラーをご紹介します。

地瓦をきっかけに
町の風景をつくる

〔株式会社 修景事業〕

LANDSCAPE



足袋人
金石健太さん

足袋人
土屋直人さん

足袋人
西山哲雄さん

職人の技術を継承して、古民家や町並みの再生を中心に活動する「株式会社修景事業」。こだわるのは、古い家屋や土蔵などをリノベーションではなく、「修復」すること。かつての職人の技術を現代に活かす取り組みです。



〒小布施町500 ☎026-247-1001
<http://www.shukei.jp/>
info@shukei.jp

信州大学工学部の土本研究室出身の3人がメインとなり、この取り組みが始まって8年になるそう。瓦を焼く専門の窯「達磨窯」も、何人もの瓦職人を訪れ、貴重なアドバイスをもらいながら、試行錯誤を重ねて作りました



小布施の町は訪れてみると、古い土蔵や建築物が多いことを感じます。そして、重厚な漆黒の美しい表情を見せる屋根瓦が印象に深く残ります。「株式会社修景事業」は今なお残る屋根瓦「地瓦」が持つ1つ1つの焼き斑の表情、デザインにこだわり、総合的な町の景観を大切に残す活動をしています。古民家修復を多く手がける「修景事業」は、昔から使われている地瓦を捨てるのではなく、リサイクルできるものはリサイクル、そして、新しく瓦をのせる際は、自ら焼きあげる地瓦を提案。生み出す地瓦の粘土は、地元のものを使用するなどかなりこだわります。

株式会社修景事業の主なメンバーである、西山哲雄さん・金石健太さん・土屋直人さんは「現代の瓦ってもちろん技術が発展しているの、色や品質が均一で便利なのは事実。でも、町の眺めもそれで全国どこでも均一な風景になっちゃって、何よりも伝統的な建築物には似合わない。小布施ならではの景観を残すには、焼き班がある地瓦が一番似合うと思うのです」と話してくれました。確かに、屋根って気づかなかつたけど、建物の中でも面積が大きい。町並みで考えると、その役割の大きさにハッとさせられました。丸みのある現代の瓦と違い、地瓦の影の作り方は、ソリッドで深い。おもしろいものです。



「まちとしょテラン」は2009年にオープンした新しい町立図書館。コンセプトは「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」。花井さんは全国公募でエントリー25名の中から選ばれた館長です。

〒小布施町小布施1491-2
☎026-247-2747 画9～20時
※火曜（祝祭日の場合は開館）、
蔵書整理期間



館長
花井裕一郎さん



LIBRARY 情報と創造を集める図書館 〔まちとしょテラン〕



情報発信をする図書館としての機能を十分に活かし、リンゴ箱に中古本を入れ、販売する古書のフリーマーケット「まちとしょテラン」箱古本市」といったイベントも行います。今年4月21～22日の二日間の開催

「まちとしょテラン」は、「見「美術館？」と見紛うほど美しい建物。設計は建築家・古谷誠章氏。格子状の木材がきれいな曲線を描くドーム形の高い天井とそれを支える枝のような柱が印象的です。壁やしきりがなく、広がる空間に、本棚やMacが自由に使えるテーブル、ショップコーナーなどが訪れる人を迎えてくれます。『普通の図書館だとおしゃべり禁止だったりしますが、まちとしょテランは自由です。図書館に詰まったあらゆる情報を元に「コミュニケーションをとって欲しい」と花井館長。そんな花井さんのデスクである館長席は、入り口の受付カウンターのすぐ横。『利用者の方々と近い距離にいたいんです』と花井さんはやさしく笑います。

「まちとしょテラン」という名前の由来は、現在のまちとしょテランができるまで小布施町にあった図書館を町民が愛称で「まちとしょ」と呼んでいたのと、「テラン」は「町を光で照らすような存在でいたい」という思いから。夜20時まで開館しているのも、利用者になるべく訪れてほしいからとのこと。花井さんは「図書館はアーカイブの蓄積場所。そこから情報を発信する場ではない」と話してくれました。「今年のテーマは「旅」。小布施には多くの旅行者も訪れますし、このテーマでいろいろ展開してみたいですね」。



AGRICULTURE

アグリカルチャー（農業）は
カルチャー（文化）の根っこ！

〔株式会社文化事業部〕



「文化事業部」といっても部署ではなく、れっきとした会社名です。小布施というステージを母体に、農業をツールにし、さまざまなコミュニケーションと可能性を拓く「新しい形」の農業の事業を展開しています。

〒小布施町500 ☎026-247-7511
http://www.bunji.jp
info@bunji.jp



3人とも入社したての若手。西岡さんは、信州大学農学部で栽培学を専攻していた。大の小布施好き。リサさんは出身国であるイギリスのエッセンスを農業に落とし込みます。千田さんは武蔵野美術大学出身のクリエイター。農業をデザインの観点からプロデュース



西岡杏子さん

ドウソン・リサさん

千田雄人さん



副住職 林映寿さん

お寺から発信する
プロジェクトに注目

〔浄光寺〕

PROJECT



クリエイターやさまざまな職種の若者が集まり、早朝に町の活性化のためのミーティングをする「朝活」を行っています。左にあるカードは、小布施の有名人を妖怪にしたもので漢字の書体は映寿さんが担当



浄光寺は、国の重要文化財に指定されている薬師堂で建立はなんと1408年（室町初期）と歴史が深いのです。その副住職を務めるのが、林映寿さん。寺のお務めをしながら、震災復興や町おこしの取り組みなどを行っています。

〒小布施町藤田676 ☎026-247-3924



小布施の町へ、
ビッグエア

〔小布施 KINGS〕

SPORTS



田沢豊さん

オールシーズン、巨大ジャンプ台にてスノーボードやスキーのジャンプを楽しむ「小布施 KINGS」。ランディング部はエアーマットになっていて、県内外からジャンプを楽しむ利用者が絶えません。写真は、スタッフでプロスノーボーダーの田沢さん。

〒小布施町藤田1146-1 ☎026-214-6520
http://obusekings.com



レーンは3つ用意されています。最大のビッグレーンは最大飛距離が17mと迫力あります。初心者用のレーンは「ゲレンデでターンができるくらい」の経験があればトライできるとのこと。見ているだけでもテンションがります

「株式会社文化事業部」に3人の新入社員が加わりました。共通しているのは「小布施の町の魅力に惹かれている」と。それぞれがまったくバラバラの個性と特性を持っていて「農業」というツールでつながっています。今年はお客さんが畑で摘み取った作物をすぐ楽しめるカフェなどを計画していたりと新しい視点で提案する彼らに目が離せません。

今年、その「株式会社文化事業部」に3人の新入社員が加わりました。共通しているのは「小布施の町の魅力に惹かれている」と。それぞれがまったくバラバラの個性と特性を持っていて「農業」というツールでつながっています。今年はお客さんが畑で摘み取った作物をすぐ楽しめるカフェなどを計画していたりと新しい視点で提案する彼らに目が離せません。

小布施に室町時代からある浄光寺の副住職・林映寿さんは、寺のお務めもしっかりこなしながら「自分ができること」をモットーに、さまざまなプロジェクトに取り組んでいます。ひとつは東日本大震災の復興のための「日本笑顔プロジェクト」。「笑顔をつなげる」をテーマで元気の輪を日本全国に広げる活動を行っています。「震災から1年経ってもまだまだ何かでつながりたい人が多いと実感しています。継続的に進めていきたい」と話す映寿和尚。もうひとつは「オプセにナンカ妖怪」「楽しいおもてなし実行委員会」が主体となり、クリエイターなど現在9名の小布施を盛り上げたいメンバーが集まり、朝の時間を活用する朝活がきっかけで生まれたプロジェクトです。イラストが得意なデザイナー、妖怪に深い知識を持つ図書館司書員、そして、柔らかな書意とする映寿さんなど、各得意分野を活かしてできたトレーニングカード。こちらを活用して小布施を訪れるきっかけづくりにする予定です。映寿さんは「小布施の先人って形にとらわれず、楽しみなが時代をつくってきたと思うんです。だったらボくらだって。笑顔の映寿さんから、その楽しさがにじみ出ていました。

花咲く庭園に囲まれた 小布施芸術の拠点

おぶせミュージアム
中島千波館



おぶせミュージアム・中島千波館は、小布施出身の現代日本画家、中島千波さん（1945〜）の作品の常設展示のほか、注目の若手作家の作品を紹介するなど、さまざまな企画展を年に5〜6回開催しています。特に今おすすめなのが企画展「東京藝術大学デザイン科描画系 ShinPA!!!」〜5月15日。東京藝術大学大学院デザイン科描画・装飾研究室に在籍、あるいは卒業した若手作家たちによる展覧会で、同年代を生きる作家たちが新しい波を築いていこうという意図のもと、足した本展は、今年でも7年目。4月22日にはワー

クショップ「三色でモビールを作ろう」を開催します。もう一つのおすすめは「おぶせミュージアム・中島千波館開館二十周年記念 水戸岡鋭治展（5月18日〜6月26日）。JR九州の鉄道デザインで知られる水戸岡鋭治氏の展覧会です。同氏がデザインした、道の駅オアシスおぶせと町内の美術館等を結ぶ町内周遊バス「おぶせロマン号」もあわせて利用してみたいところです。

館内には、小布施の祭り屋台を展示する見ごたえある「屋台蔵」のほか、小さなアートショップ、カフェも併設して楽しいですよ。



おぶせミュージアム 中島千波館
住小布施町小布施595
☎026-247-6111
開9〜18時（10〜3月は〜17時）
休12月31日、展示替え時



OBUSE MAP



今すぐ行こう! スパッと検索!
信州ナビ助
まずはQRコードからアクセス!!
〔信州ナビ助〕
<http://navi-suke.jp/>

日和のお散歩コースが
ケータイを使って楽しめる

ケータイサイト「信州ナビ助」では、日和の情報がたくさん載っています。トップページからは、日和と連動した「お散歩ナビ助」が閲覧できます。ケータイ片手に小布施をお散歩してみたいかたがたが、ぜひ。

千歳公園で撮影したら、
たくさんのお花に囲まれ
ちゃった

かわいい！
こんな感じで撮っ
てみました



カフェでラテを飲みな
がら、お気に入りの！
枚を応募！



街角の小さな花屋
さんで見つけたかわ
い花をパチリ

このホットドッグ、食
べる前に写真に撮って
おこっと♪

カメラを持ってぶら
ぶらと散歩。天気によ
くって、気持ちいいー

「日和」主催
Photo Contest
作品募集！

ナガノ
おさんぽカメラ
OSANPOCAMERA

フォト
コンテスト

みな
ーが
たし
の
だけ
の
つ
け
た
。



あなたが歩いてみつけた
“長野市のステキな春”を気軽に撮って応募しよう

応募期間：2012年4月1日①から7月8日②まで

- 審査員：若者のためのフリーマガジン「日和」編集部ほか
応募対象：オンラインで応募いただいたデジタル写真が対象となります。
応募方法：
●デジタルで撮影した方
▶ながの「四季の彩り」キャンペーン特設サイトの応募フォームから送信ください。 <http://nagano-irodori.com>
●携帯のカメラで撮影した方
▶専用の受付メールアドレス宛に、画像を添付して送信ください。
osanpo@nagano-irodori.com
●ツイッターアカウントをお持ちの方
▶画像と、ハッシュタグ #naganosanpo をつけて、キャンペーン公式ツイッターアカウント @nagano_osanpo 宛につぶやいてください。



1
名様

最優秀作品には
コンパクトデジタル一眼カメラ
を進呈！

SONY α NEX-C30 デジタル一眼カメラまたは同等品



5
名様

テーマ別優秀作品には
「日和」セレクションカメラストラップなど
を進呈！

ナガノおさんぽカメラの詳細は
ながの「四季の彩り」キャンペーン特設サイト
<http://nagano-irodori.com>

あなたは写真が好きですか？
コンパクトデジタルカメラ、デジタル一眼カメラで写真撮影を気軽に楽しんでいる人は多いはず。はたまた、味わい深い写真が撮れるトイカメラやアナログな銀塩カメラを使う人もいますよね。それと、何とて便利なのが携帯電話のカメラ。最近の携帯はクオリティの高い写真が撮れるので、日常生活でもついつい何枚も撮っちゃいます。
さて今回、そんなみなさんがさまざまな楽しんでいる写真のフォトコンテストを開催します。テーマは「長野市のステキな春」。長野市限定です。「花」「グルメ」「ポート

レート（人物写真）」「風景」「動物」の5つのジャンルを設けたので、好きなジャンルで応募ください。応募方法はメールかツイッター（左記を参照）。写真はどんなカメラで撮ったものでもかまいません。デジタルデータのみの受付となります。応募作品の中から、受賞された方には、豪華賞品をプレゼント。うーん。編集部も欲しい……。ほかほかした春の陽気の中、おさんぽがてら撮影した、あなただけの「長野市のステキな春」を送ってください。どしどし応募をお待ちしています。詳しくはウェブをチェック。

すっかり春めいてきた今日このごろ。陽気に誘われて、お気に入りのカメラ片手に、おさんぽする人も多いのでは。そんなほっこりしたおさんぽ写真を募集します。

応募のジャンルは下の5つです。

1. おさんぽ × 花
2. おさんぽ × グルメ
3. おさんぽ × ポートレート
4. おさんぽ × 風景
5. おさんぽ × 動物



マルチボックス

モールドパルプボックス (S) 1260円
段ボールと新聞紙の古紙でつくられたパルプボックス。たまたま「R」の姉妹店と同じ名前ですがオリジナルではございません！

メモパッド

5mmグラフパッド (A6-A5) 315円 (A6)、420円 (A5)
再生紙を使用。有名ブランド「R●ODIA」もいっけと (!)、やっぱり、地球のコトを考えながらメモをとるのも素敵ですね。

R

「R」は松本市の郊外にあり、気持ちのよい芳川公園のすぐそばにあります。毎日をはんの少し彩る雑貨のほか、新しいモノ、古いモノにとられない家具、そして厳選された洋服が、店内に心地よく配置されています。



〒松本市芳川小屋937
☎0263-88-6765
営業11～19時30分
陳水曜
<http://www.takumihp.com/>

Standard Style

見ているだけで楽しくなる生活雑貨、洗練されたデザインで確かな品質の家具などが広い店内にずらりと並びます。併設されるカフェは手作りのパン、ドリンクメニュー、ランチが楽しめる、はっと一息のんびりできるのも魅力のひとつ。



〒松本市平田東3-1-12
☎0263-57-7733
営業10～20時
陳火曜 (祝日の場合は翌日)
<http://www.standardstyle.co.jp/>

ペンケース

水縷ペンケース 2940円
日本のデッドストックのカーテン生地を使用した (少量生産!) ペンケース。デッドストックならではの美しい柄が特徴です。



スタンプ

水縷ハンコ漫画 (全8種類) 各630円
「ワ」「びっくり」など漫画の効果音や背景をモチーフにしたスタンプ。手紙の文面にカラフルなインクで押せば、にぎやかで楽しめます。



ノート

ORANGE AIRLINES カルトンA5ノート 各630円
鮮やかな配色が特徴のノート。カルトンポケットが付いているので、ちょっとしたメモやレシートを一時的に挟んでおくのに便利です。



一筆箋

美築堂 カリメラ 各420円
「カリメラ」は、動物や植物の平面作品を展開する梶野沙羅さんのブランド。印刷ながら、梶野さんの木版の温かさが伝わる一筆箋。

Granary

北欧テイストをベースとしたシンプルでモダンな家具、生活に彩りを与える雑貨を取り揃えています。ACTUSのオリジナル雑貨はもちろん、プラスマイナスゼロ、littleをほじめとしたブランド、ミレフィオーリ、美築堂なども販売。



〒長野市大門町57-2 ばていお大門
蔵楽庭内 ☎026-237-2001
営業11～19時 陳火曜
<http://www.granary.jp>

新しい文具で、フレッシュなスタートを

今月からはじまるこの企画「HIYORI SIMPLE STYLE」は、1年を通してテーマごとに、街の雑貨屋さんからおすすめの商品を紹介してもらいます。記念すべき第一回は「ステーションナリー (文具)」。4月となれば、新生活のスタートを切る人も多いのでは？ また、そつでない人も何か新しい文具を取り入れて、心機一転フレッシュな気持ちで新年度のスタートを切りたいもの。ご紹介する雑貨屋さんにはこちらのアイテム以外にもステキなものがたくさんそろっています。春めく今日この頃、こちらの雑貨屋さんにご足をお運びください。きっと、あなたにぴったりの一品があるはず。

「HIYORI SIMPLE STYLE」今後のテーマ

5月	「雑貨屋さんの洋服」	10月	「寝具・ベッドまわり」
6月	「食器・テーブルウェア」	11月	「コーヒー・紅茶・ハーブティ」
7月	「キッチン用品・ガーデニング」	12月	「ギフト」
8月	「雑貨屋さんのアクセサリ」	1月	「スキンケア・ヘアケア」
9月	「キャンドル・ルームフレグランス・インセンス」	2月	「アロマ・リラックスグッズ」
		3月	「ベビー」





はたらく人



今年3月に松本市で開催された「家具屋solnteの木のある日々の暮らし展」は、セレクトショップ「R」にて行われた



とにかく笑顔が絶えなかった、明るい家族の好之さん、ふみさん、耕くん
1Fの広い工房での仕事。「最近はずり育てもあり、主にデザインを担当している」とふみさん

じゃあ苦労しよっか、と 独立しました

solnte (ソルンテ)
〒松本市奈川990-22
☎0263-79-2883
※10時30分~17時(要問合せ)
※不定(要問合せ)
<http://www.solnte.com>

嶋田さんの相図

[74号登場]
柳澤真理
料理人(修行中)



同じ職人を
仲間志



[75号登場]
神出さくら
イタリア料理人

友人

岩原あずみ(左)
fennel 勤務

金井三和
スマイル研究所 主任



?

次回をうご期待!

今回も山また山を向かう。
行き先は、岐阜県との県境に位置する松本市奈川の「solnte (ソルンテ)」。

嶋田ふみさんとご主人の好之さんと二人で、木の家具や小物のデザインと製作を行い、今年で4年目の春を迎えた。

ふみさんと好之さんは、上松町にある木工の技術専門学校で出会った。家具の製作技術を学びたい人たちが集まり、目的意識を持って学ぶ、全国でも知名度のある専門学校だ。その後、二人は岐阜県高山市での仕事を終る。「solnte (ソルンテ)」という名は、好之さんが新潟出身でもあって、新潟弁で「木は反るんて(反るんだよ)」からきている。「木の持つ個性の小粋さと郷土愛で表現した」というこの屋号は、二人

のユニークさを伺わせる。

彼らが作り出す家具や小物はラインが細い北欧テイストのものが多く、そのクオリティの高さは一目瞭然だ。でもなぜ、この奈川に? 「実家が奈川だったんです。手頃な物件が見つかったのと、自分たちの工房が欲しかったこともあって」とふみさん。「独立するにあたって、いろんな木工家さんに相談もしました。『独立はいつでもできる。早く独立するほど苦労も多いよ』と言われて、じゃあ、苦労しよっかって(笑)」。

現在はお客さんからの受注での製作がメイン。これからオリジナルの家具なども増やしていきたいと意気込む。ふみさんは「自分たちの作る家具をたくさんの人に見てもらいたい。仲間ももちろん、お客さんとのつながりが大切だし大事にしたいなって常々思います」とほほえむ。最近行った展示会の会場はセレクトショップ、自分たちの家具以外にも県内外の作家の作品や、仲間のカフェのスイーツ、イタリア料理屋の焼き菓子など、訪れる人を迎える姿勢に、彼らのそういった思いがにじみ出ている。

自然光がたくさん降り注ぐ気持ちのいい空間での取材中には一人息子の耕くん(1歳)も同席。もちろん大人しくなんてしてられないのだが、耕くんがお茶をこぼしては、夫婦で「わぁー」なんて笑ったり。こちらもつい、ほほえんでしまう。さわやかな春風がそとと舞い込むような、あたたかい雰囲気

が流れる工房だった。